

要申込
有料

でんおん連続講座

申込方法

はがき・FAX・電子メールのいずれかの方法により、以下の項目についてご記入の上、お申込みください。申込多数の場合は抽選とします。

①郵便番号 ②住所 ③氏名 ④電話番号(FAX番号) ⑤希望する講座

申込先・問合せ先

〒610-1197 京都市西京区大枝沓掛町13-6
京都市立芸術大学 事務局連携推進課（事業推進担当）

TEL 075-334-2204（平日 午前8時30分～午後5時15分）

FAX 075-334-2281

E-mail public@kcua.ac.jp

会場

京都市立芸術大学
日本伝統音楽研究センター

京都市西京区大枝沓掛町13-6（新研究棟7階）

● 阪急桂駅東口バス停より

京阪京都交通バス 1・2・13・14・25・28 系統
乗車約20分、「芸大前」下車、徒歩すぐ

● JR京都駅【C2のりば】より

京阪京都交通バス 2・14・28 系統に乗車、「芸大前」
（約45分）下車、徒歩すぐ

※ 運行時刻、その他交通機関についての詳細情報は、
各社のホームページをご確認ください。



主催

京都市立芸術大学 <http://www.kcua.ac.jp>

日本伝統音楽研究センター <http://w3.kcua.ac.jp/jtm/>

● 日本伝統音楽研究センター公式Facebook <https://www.facebook.com/kcua.rcjtm/>

でんおん 連続講座

音源・映像・実演を交えて楽譜などの演奏資料を読み進めることで、専門的なテーマに気軽に触れていただける市民講座です。

申込方法は裏面をご覧ください
要申込
有料

定員

各講座の紹介をご参照ください。

申込受付

各講座の開講日の
1ヶ月前から開始
（3日前まで受付）

A

常磐津節実践入門 （その7）

4月27日（金）～7月13日（金）

各回 10時40分～12時10分【全7回】

※ 期間中の詳細な日程については裏面をご確認ください

講師：常磐津 若音太夫（竹内 有一）
（日本伝統音楽研究センター教授）

B

京都の琴（その5）

6月9日（土）・6月23日（土）・7月7日（土）

各回 13時00分～14時30分【全3回】

講師：武内 恵美子
（日本伝統音楽研究センター准教授）

伝音セミナー

日本の希少音楽資源にふれる

日本伝統音楽の講座に参加するのは初めてという方にも、気軽に受講いただけるセミナーです。

申込不要
参加無料

定員

各回につき先着 50名

第1回
5月10日（木）

国際文化振興会レコード 謡曲と声明

講師：藤田 隆則（日本伝統音楽研究センター教授）

第2回
6月7日（木）

説教節を聴く

講師：藺田 郁（日本伝統音楽研究センター非常勤講師）

第3回
7月5日（木）

雅楽の今昔（その3） — こんにちの古譜解読と創作 —

講師：ジョライ アンドレア（Andrea GIOLAI）
（国際日本文化研究センター 日本学術振興会研究員・伝音センター共同研究員）
田 敏 智志（日本伝統音楽研究センター准教授）

第4回
9月6日（木）

京都のうた（その4）

講師：大西 秀紀
（日本伝統音楽研究センター客員研究員）

会場

京都市立芸術大学 日本伝統音楽研究センター

京都市西京区大枝沓掛町13-6（新研究棟7階）

講座内容の詳細は
内面に掲載しています。▶

A 常磐津節実践入門 (その7)

4月27日・5月11日・5月25日・6月1日・
6月15日・6月29日・7月13日

各回 10時40分～12時10分【いずれも金曜日・全7回】

講 師：常磐津 若音太夫（竹内 有一）
（日本伝統音楽研究センター教授）

定 員：10名

受講料：6,000円

京都生まれの初世常磐津文字太夫が創始し、江戸歌舞伎で大成させた常磐津節。古典曲を題材に、作品の歴史的背景、構成や特徴、表現技法を考察し、浄瑠璃（語り）と三味線、それぞれの演奏体験を深めます。全体で講義4、実技6の割合を目処とし、題材は受講者のリクエストを踏まえて調整します。試演会、鑑賞会、名曲史跡探訪等も行います。初心者大歓迎です。



B 京都の琴（その5）

6月9日(土)・6月23日(土)・7月7日(土)

各回 13時00分～16時10分【全3回】

講 師：武内 恵美子
（日本伝統音楽研究センター准教授）

定 員：10名

受講料：3,000円

平成 29 年度後期連続講座Ⅰ「京都の琴（その4）」に引き続き、琴（キン／七弦琴／古琴）の持つ特徴的で魅力的な世界観を紹介します。毎回、講義と体験実習を行います。講義では、(1) 琴の様々な文化的側面を学びつつ、(2) 各回 1 曲、琴の代表的な曲を取り上げて、曲目の背景や内容について解説した上で鑑賞します。また、(3) 江戸時代に京都で活躍した琴士を、各回ひとりずつ取り上げて紹介し、京都における琴の世界を紐解いていきます。

体験では、受講者の進捗に合わせて指導しますので、初めて触れる方でも大丈夫です。多少経験がある方にも御参加いただけますが、体験ですので、中級以上の方への実技指導は致しかねます。詳細はお問い合わせください。

※ 楽器は用意しますが、人数によっては複数で 1 張を御使用いただく場合があります。琴を所有されている方は御持参くださっても構いません。



第 1 回

5月10日(木)
14時40分～16時10分



国際文化振興会レコード (KBS)に収められた 謡曲と声明

講師：藤田 隆則（日本伝統音楽研究センター教授）

伝音セミナーは 2006 年に始まりました。今回は初心にかえり、昭和 18 ～ 19 年に国際文化振興会によって制作された「日本音楽集」の中から、声明および能・狂言の録音をききたいと思います。喜多六平太（初世）、宝生新ら名人の謡と、現代の録音との比較も試みます。どのような音が鳴り響くのか、ご期待ください！

第 2 回

6月7日(木)
14時40分～16時10分



説教節を聴く

講師：藺田 郁（日本伝統音楽研究センター非常勤講師）

説教節は長い歴史のなかで盛衰を繰り返しながら、現代に根強く残っている語り芸です。このセミナーではその移り変わりを辿りつつ、特に明治期に親しまれた説教節を取り上げます。日本各地に残された近現代の音源を聴き比べ、当時の民衆を惹き付けた説教節の魅力について考えてみます。

第 3 回

7月5日(木)
14時40分～16時10分



雅楽の今昔（その3） — こんにちの古譜解読と創作 —

講師：ジョライ アンドレア（Andrea GIOLAI）
（国際日本文化研究センター 日本学術振興会研究員・伝音センター共同研究員）
田 敏 智志（日本伝統音楽研究センター准教授）

日本の雅楽は長い伝承の間、盛衰を経て今日に至っています。古楽譜解読の結果立ち現れる音楽は、解読者によりかなり異なります。そのような古楽譜解読の問題を洗い出し、またこんにちの創作の動向も探ってみます。でんおん管絃講による平安中期楽譜再現演奏の最新録音もお聴きいただきます。

第 4 回

9月6日(木)
14時40分～16時10分



京都のうた（その4）

講師：大西 秀紀（日本伝統音楽研究センター客員研究員）

「京都のうた」の 4 回目は、「第三高等学校逍遙歌」「京都府立第三中学校（現・府立山城高）校歌」「同志社大学校歌」「立命館大学校歌」など京都の学校関係のレコードをはじめ、河原町三条角にあった日本録音文化協会（NRBK）制作の「火の用心」「上鴨子供の歌 春はさんやれ」「大枝音頭」、大正 15 年発売の宇治検番芸妓連中による「茶摘踊」などをお聴きいただきます。

※ 曲目を追加・変更する場合があります。